

全国健康保険協会福島支部のレセプトデータと健診データからの報告－1報－

演者：蛭田悠平 1)、畑淳子 1)、各務竹康 2)、早川岳人 2)、辻雅善 2)、熊谷智広 2)、日高友郎 2)、福島哲仁 2)

所属：1)全国健康保険協会福島支部

2)福島県立医科大学衛生学・予防医学講座

【目的】全国健康保険協会（以下「協会けんぽ」）福島支部の①1人当たり医療費②健診受診者のリスク保有者割合③健診の問診項目を使った生活習慣傾向について二次医療圏毎に分類し、今後、保健事業を行ううえで、優先順位の明確化を行う。

【方法】①の対象者は、平成24年度当支部の全加入者（平均加入者数615,834人）とした。年間レセプトデータから性・年齢階級別に、診療種別（全医療費、入院、入院外、歯科、調剤の5種類）、疾病別（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、腎不全、高血圧、糖尿病、気分障害・ストレス障害、認知症の8疾病）について1人当たり医療費を示した。疾病分類は121傷病名の社会保険表章用疾病分類を用いた。集計結果を平成24年度の当支部平均加入者で標準化し、地域毎の1人当たり医療費を比率で表した。②の対象者（35歳～75歳）は、当支部被保険者と県内健診機関で受診の他支部被保険者で、県内居住者かつ1年間継続加入の123,343人とした。性・年齢階級別に血圧、代謝、脂質、メタボリック、腹囲のリスク保有者割合を示した。③の対象者は、健診の問診項目に回答した被保険者135,369人とした。②、③ともに分析対象者総数で標準化し、地域毎のリスク保有者割合、生活習慣の差を比率で表した。SPSSにて有意水準5%で検定を行った。

【結果】1人当たり医療費、リスク保有者割合、生活習慣ともに地域による差がみられた。原発事故による避難区域を包含する相双地域及びいわき地域では、全ての診療種別において平均を上回った。南会津地域の高血圧症及び糖尿病の1人当たり医療費は、平均より高血圧症は0.93倍、糖尿病は0.89倍低い、それらが基礎疾患となる心疾患の医療費は、平均より1.5倍高かった。

【考察】医療費やリスク保有者割合が平均を上回る地域の傾向が明らかになった。原発事故による避難区域や南会津地域には日常の健康管理と診療状況を絡めての課題は大きい。今後、経年的な比較を行い、更に二次医療圏毎の特徴を把握し、地域の実情に応じた福島支部のデータヘルス計画策定とその実践に活かしていきたい。